地方のＪクラブと地域コミュニティ戦略の課題と今後の発展に向けて
―鹿島アントラーズに着目して―

生涯スポーツゼミナール　1315050　濵野大地

１．研究の動機及び目的

サッカー日本代表は、1998 年にワールドカップに初出場を果たしてから 6 年連続で出場している。しかし、2002 年の日韓ワールドカップで初のベスト 16 を果たして以来、2010 年の南アフリカ、今年行われた 2018 年のロシアでもベスト 16 止まりという結果に終わり、いまだベスト 8 という大きな壁に阻まれている。そのため、2020 年の東京オリンピックや 2022 年のカタールワールドカップ、その先に向けて、日本サッカーの認知度と競技力の向上が必要不可欠である。そこで、日本サッカーのトップリーグである J リーグに目を向けた結果、J1、J2、J3 含めて 54 クラブが在籍しており、今後認知度や競技力を向上させるためには活性化したリーグ戦の展開やチーム数を増やすなどリーグ全体の規模の拡大が重要である。しかし、日本代表の試合はネットやテレビでチェックしているが、J リーグは全く見ないという人や海外サッカーしか見ないという人が多いのが現状である。そこで、今後日本サッカーの底上げをするためには、それぞれのクラブが地域サービス活動を活発に行い、スタジアムに足を運んでもらう人を増やし、肌で魅力を感じてもらうことが有効ではないかと推測した。たとえば、地域サービス活動に積極的な川崎フロンターレや松本山雅は、競技場の中で F1 の車を走らせたり、電車の車内をチーム関係のグッズで埋め尽くしたりなど工夫が見られる。

そこで私の地元のクラブである鹿島アントラーズを対象に、ホームゲームに観戦に来ているサポーターへのアンケート調査を基に、設立から現在までの過程やクラブの「地域コミュニティ戦略」などを明らかにしていきたいと考えた。

２．用語の定義

松橋（2007）によれば、「地域コミュニティ戦略」とは J クラブの「収益性の安定」を図るために「地域活動」をどう実施するかについての基本的意思決定である。J クラブの収入源として広告料収入、J リーグ分配金収入、入場料収入などがあるが、年々親会社の資本金への依存や広告料収入の割合が低下している。J クラブにとって収益性の安定を図るには、入場料収入、グッズ料収入、スクール運営収入の割合を増やすこと、突き詰めれば「地域サービス活動」に積極的に取り組んでいくことが重要である。

３．研究方法

文献研究及び 2018 年 10 月 31 日のセレッソ大阪戦と 11 月 3 日の ACL でのペルセポリス戦で観戦に来ていたサポーターに対して、アンケート調査を行った。

３．主な結果と考察

（１）文献研究

「地域コミュニティ戦略」として選手がホームタウンの小学校を訪問し、子どもたちと触れ合う機会を作っていること（学校訪問）、地域在住、在勤、在学の人達をホームゲームに招待すること（ホームタウンデイズイベント）、フィットネスクラブ「カシマウェルネスプラザ」の開設、クラブのチームドクターによる整形外科やリハビリテーションの診察・治療（アントラーズスポーツクリニック）などを行っている。

（２）観戦者アンケート

クラブの魅力について尋ねたところ、「クラブの伝統に根付いたイメージ」の回答が最も多く、次いで「ジーコ・スピリット」、「スタジアムの見やすさ」、「強さ」、「スタジアムグルメ」などの回答が多かった。観戦理由について尋ねたところ、「家族がアントラーズファンだったから」が最も多く、次いで「スタジアムでの興奮を味わいたいから」、「サッカーが好きだから」などの回答が多かった。個々の地域サービス活動の認知について尋ねたところ、子供対象のサッカー教室と回答した割合は 13.2%だったが、あまり知らないと答えた割合が 26.4%と一番多く、ホームタウン活動があまり知られていないという結果になった。

４．結論

鹿島アントラーズでは、文献調査で明らかにしたようにたくさんの地域サービス活動を行っているが、観戦者調査ではまだまだサポーターへの認知度は低いことがわかった。サッカーに興味を持っていない人達にもクラブを知ってもらうための工夫を凝らすべきだと考える。そうすることによって、スタジアムに足を運ぶ人が増えて、リーグ全体が活気と熱気に溢れていくのではないかと考える。また、鹿島アントラーズのように地方のクラブにはアクセスが都会に比べて不便というのがあり、試合前後に渋滞が発生してしまうという大きな問題が挙げられるが、スタジアム周辺の改革を行うことでこれを解消できると考える。スタジアムを中心として商業施設などを建設し、地域に還元できるシステムを整えていくことが大切だと考える。クラブと地域の強みをより伸ばし、弱みを味方に変えることで強みにしていくことが、今後の発展に向けて大事になってくると考える。

５．卒業論文の執筆を終えて

本研究を行うにあたり、多くの方のご指導、ご助言、ご協力を賜りました。この場を借りて心より感謝を申し上げます。アンケート調査にご協力いただいた鹿島サポーターやアウェイのサポーターには、大変お忙しい中ご協力していただき心より感謝致します。

特に、指導教官である黒須充先生には大変お世話になりました。大変お忙しい中、卒業論文の面倒を見ていただき、時にはご迷惑をおかけすることもありましたが、最後まで見捨てずに仏のようなやさしさで温かく見守っていただいたおかげで、無事に書き終えることができました。本当にありがとうございました。